

きんもくせい

編集目標 学びあい 人がつながり 一人ひとりが輝く 富士見の教育

令和7年 学校教育だより

December 12 第367号

(年4回発行)

編集・きんもくせい編集委員会

発行・埼玉県富士見市教育委員会

電話・049-251-2711(内線623)



真剣な眼差しと笑顔に満ちた児童

写真提供／水谷小学校

「冬の一日」

本郷中学校 三年
小川 おがわ

藍 あい

冬の朝 寒さで目を覚ます
白い息を吐きながら歩く

教室の窓に雪が舞う

ノートに文字を書き進める
時々手が止まり

ちらりと窓を見る

帰り道

つま先から鼻先が凍るほど

冷たい風の中をゆっくり歩く
あたたかい家が
待っているから

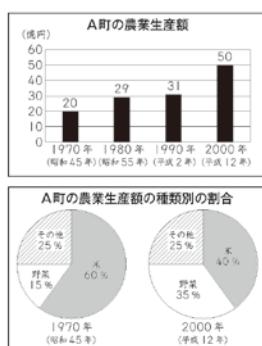
はじめに

一人一台のタブレット端末が整備されてからすでに六年が経ち、日常的に端末を使って学習する子どもの姿がすっかり定着してきた。たくさんの情報があふれている現代、子どもたちには、どの情報を使い、そこから何を読み取るかを様々な角度から考える力が求められている。学校では、子どもたちが「数学的に考える力」を働かせることができる学習活動を行うことが大切とされている。本稿では、この観点に基づき、六年生の算数「データのとくちようを調べて判断しよう」の授業で実践した具体的な取り組みを紹介する。身近なデータを集め、表やグラフを整理し、そこから読み取れる特徴をもとに自分の考えをまとめる活動を通して、主体的に学ぶ姿勢の育成をめざす。

動の工夫」

判的に考察する力の育成を目指して~

指導者 富士見市立水谷小学校 教諭 石川 真成



①児童の理解の状況

左図の問題は、以前出題された全国学力・学習状況調査である。「二つのグラフを見て必要な情報を選ぶ問題が出題された。この問題は、一九七〇年と二〇〇〇年の米の生産量を比べるために、それぞれの都市の農業生産額と米の生産量の割合の両方を考える必要があった。しかし、正答率は七・六パーセントだった。この結果から、子どもたちは一つの情報から判断することができても、複数の情報を組み合わせて考えることが難しいこ

とがわかる。

②授業のねらい

授業のねらいは、データをもとに結論を出す際、いろいろな角度や立場から考え、間違いや矛盾がないか確かめる力を育てるることとした。目指す子どもたちは、「いろいろな角度から考えて判断できる子ども」とした。

③研究の仮説

一つの情報だけで判断せず、複数の情報から必要なこと

④考える力を育てる工夫

①いろいろな角度から考え、結論を出せる活動

子どもたちが自分で考え、必要性を感じられるよう

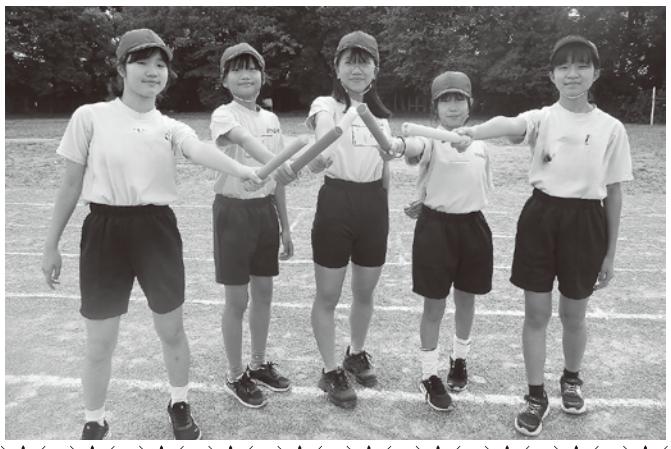
に、学校行事と関連させて活動を行った。



針ヶ谷小学校 6年
相川、上田、関口、真島、諸岡

「私たちの代表リレー」

私たち、陸上大会のリレーに出場しました。最初は、バトンパスがうまくいかず苦戦しました。どうしてもうまくいかず、苦しかったです。しかし休み時間や放課後の時間をつかって、毎日練習をかさねていくうちに上手になり、最後の練習ではベストタイムを出されました。そして大会当日、練習の成果が出せるか不安でしたが、1位になりたいという思いで走り出したら走から4走までバトンをつなぎきり、2位でゴールすることができました。本当にうれしかったです。練習の成果も出せて、本番でもベスト記録を更新させて2位になることができて感動しました。中学校でもこの経験を活かし、がんばっていきたいです。



②タブレットアプリを活用

単元の後半では、考える力をしっかりと確保するためにグラフ作成アプリを使った。アプリでは作ったグラフや表を見ながら、自クラスや他のクラスの特徴を理解し、根拠をもって自分の結論を出す活動を行った。

特別支援教育

魅力ある授業

=水谷小学校 算数科=

「数学的活」

～データの活用における多面的・批

⑤ 実際の授業の様子

授業の導入では、校内長縄大会で自クラスが優勝できるかを予想するために、どんなデータが必要かを子どもたちに出してもらった。

- ・子どもたちが考えたデーティー例
- ・平均・チームワーク・作戦
- ・ひつかかつた回数・一分間の記

録・昨年の最高記録・他のクラ
スの回数

授業一時間の中で全てのデータを扱うのは難しいため「一番大事なデータは何か」を

⑥ データを分析・結論

結論を出していくと、「自クラスは優勝できない」という結論が多かった。「なぜ、自クラスが優勝できないのか」根拠を基に議論した。子ども

練習記録

をもとに、
データ整
理と分析
を行つた。

他の方の回数
他の方と比べる
回数 (回数)
轉回数 (回数)
教 ひ方と回数
年の最高回数 分間回数

二〇

算数の授業では、「子どもたちがやつてみたい」「自分たちで考えてみたい」と思えることがとても大切である。今回の授業では学校行事である長縄跳び

指導 · 講評

A black and white photograph of a youth baseball team. The team consists of approximately 25 players, mostly boys, arranged in three rows. They are wearing matching baseball uniforms with caps and are posed outdoors on a field.

で見事に優勝することができた。算数での学びが実際の行動や成果につながった、印象に残る授業となつた。

「必要な情報を取捨選択し、複数のデータを整理・分析し、自分なりの結論を導き出していく」石川教諭の本取組は、これから的情報社会で生き抜いていく子どもたちにとって、とても意味のある授業であると考えます。

今後も算数科を柱として、物事を多面的・批判的に捉え、様々な事象やデータ等を根拠にし、自らの考えをまとめたり、結論を出したりする力を身に付けさせる授業について研究を深めていくてもらいたいと思います。

長縄大会・高学年の部・優勝

部活動に感謝

勝瀬中学校 保護者 近藤 泰弘

「お父さん、バッセン行きたい。連れて行つて。」
ソフトボール部に所属する中三の娘からの意外なお願いに父として一瞬驚くも、心中で「よし！」と叫んだ。冷静を装い、「急にどうしたの？今までバッセン行きたいとか言つてなかつたじゃん。」と言ふと、「だって、打てないんだもん。」と娘が半泣きで答える。

「バッセン」とはバッティングセンターのこと。三つ上の兄が野球をやっていた関係で娘もよく知っている言葉だ。娘は中学の部活動で初めてソフトボールを始めた。野球好きの父としては嬉しかったが、最初の頃は「バッセン行く？」と誘つても「あとでいいや。」と断られていた。何度も自分から言い出したのは三年生になつて試合に出るようになつてからだ。結果が出ないことに焦りを感じて



「大会期間中も娘の希望で週に二、三回「バッセン」に通つた。娘の成長する姿が見られたのも、部活動があつたからこそ。先生方やチーフメイト、周りの保護者の方々に支えられたお陰である。本当に部活動には感謝しかない。」



地域との絆を深める

諏訪小学校

諏訪小学校の運動会と地区体育祭が、今年も元気いっぱいに開催されました！

午前中の運動会では、子どもたちが一生懸命に競技や演

技に取り組む姿が印象的でした。徒競走 学年競技では、

力合わせて走る楽しさや達成感が校庭いっぱいに広がり、

学年表現では各学年で工夫を

して、練習の成果を発揮し、

応援する保護者や先生たちも

笑顔に包まれました。

午後の地区体育祭では、地

域の皆さんと一緒に体を動かし

て楽しむ時間がありました。

子どもたちは元気いっぱいに参

加し、地域の方々との交流を

通して、協力する楽しさや笑

顔の輪を広げることができま

した。

今年の運動会と地区体育祭

も、子どもたちの成長や友情、

そして地域とのつながりを感じ

次男が小学校六年生となる本年、「保護者・教師の会」の役員を務め、学校や地域との関わりを深める貴重な機会をいただきました。教職員の皆様が「子どもたちのため」に熱意をもつて日々ご尽力くださいました。改めて感謝申上げます。また、長年にわたり通学路を見守つてくださる地域の皆様のおかげで、子どもたちが安心して登下校できていることを

地域の中で未来を育む

ふじみ野小学校 保護者 井上 未来

改めて感じました。

役員となり、これまで保護者として「見る」立場から、

行事等の運営を支える「関わる」立場へと変わり、新たな

視点を得る貴重な経験となつています。活動の一環として

地域のお祭りに出店した際に

は、幅広い世代の方々との交

流を通して大きな喜びと達成

感を味わい、大盛況のうちに終えることができました。長

男も中学校からボランティア

られる素敵な一日になりました。
参加してくださった皆さん、
応援してくださった皆さん、
ありがとうございました！



として参加し、小さな子どもたちに遊びを教えるなど、主体的に活動する姿を見て、その成長に胸が熱くなりました。

長男が小学校に入学する頃、富士見市に転居しました。すぐに学校にも慣れ、放課後は友達とよく遊びに出かけていました。大きなトラブルもなく安心して子育てができるこの豊かな日常は、多くの方々の温かい支えによって成り立っています。私も微力ながら、役

員活動を通して、子どもたちの成長を見守つていきたいと思います。そして、八年間お世話をなった小学校への感謝を胸に、卒業の時を迎えることを思います。



第50回 東中合唱祭

東中学校

十月十七日(金)キラリ☆ふじみにて、東中学校の第50回合唱祭が行われました。ストーガンは「百歌のコラボレーションは、歌の世界に新たな彩りを加えてくれました。めぐりといえど制作する上で注意することがたくさんあります。一番大切なのは遠くから見ても「映える」ことです。広いホールで存在感を發揮されるのは簡単なことではありません。

合唱の余韻を感じられ、同時に学校をとても明るくしてくれています。来年はどんなめぐりが作られるのか、そしてどんな合唱祭になるかが、51回目の合唱祭が今から楽しみです。

現在、めぐりは校舎内の階段に掲示しています。階段を上るたびに

練乱(響かせる半世紀の想い)」。そのストーガンのもと、どのクラスも一ヶ月以上前から練習に励み、本番では思う存分に力を発揮してくれました。どの学年、学級の合唱も素晴らしい、東中の新たな伝統を築いてくれました。

そして、昨年度から新たなる取り組みとして行っているのが歌紹介の「めぐり」(下写真参照)です。クラシックごとに歌のイメージをふくらませ、担当生徒がそのイメージを絵として表現しています。ステー



教育課題特集

夢ときぼうを

消防署見学・職場体験を通じて

入間東部地区事務組合東消防署消防課 吉田 邦雄

消防署では、学習の一環で実施する消防署見学や職場体験で小中学生の受入れをしています。これらは、消防署の役割や業務を知つてもらうとともに、防火・防災に対する理解を深める貴重な機会であると考えています。子どもたちは、指令室や消防車両、器材等の見学を通じて、日々の仕事に憧れを抱く子どもも少なくありません。将来に向けて「消防士になりたい」と思っているかを学びます。中学生の職場体験では、防火装備を着装した煙体験訓練や放水訓練など実際の訓練を通じて消防署の仕事への理解を深めます。

こうした体験は、子どもたちにとって一過性の印象にとどまるものではありません。見学をきっかけに「火遊びをしない」「避難経路を確認する」といった意識を家庭にも持ち帰り、保護者や家族への注意喚起にもつながっていくと考えられます。実際に「住宅用火災警報器の重要性を子どもから聞き、設置を検討しました。実際に近付いてみると細かいところまで工夫が凝らされています。よく作り上げたなど感心するばかりです。学年

場体験はその第一歩として、子どもから家庭へ、さらに地域へと防火・防災意識を広げる役割を果たしており、住民にとって確かな利益になると考へています。



人間尊重教育推進

わたしたちのまちに

育てよう
広げよう

人間尊重の心

一 富士見市は人間尊重宣言都市です

私たちのまち富士見市は、昭和四十一年に人間尊重都市宣言をしました。

「からだと心の健康を高めよう」

「自分を大切にするとともに、他人を尊重しよう」

「個性をよりよく生かし社会のために役立てよう」

と呼びかけながら私たちのまちを人間尊重のまちにすることを宣言したのです。

二 学校における人間尊重

市内の小・中・特別支援学校では、一人一人の子どもたちが大切にされ、互いに尊重し合い、信頼関係で結ばれた学校づくりが進められています。

が実践されています。

また、すべての教職員により一人一人の子どもたちが大切にされ、互いに尊重し合い、信頼関係で結ばれた学校づくりが進められています。

三 家庭教育における人間尊重

子どもにとって家庭は、安らぎの場所であり、人間としての生き方を学ぶかけがえのない場です。また、親子のコミュニケーションは、食事が体をつくるのと同じように、子どもの豊かな心をはぐくむこととなります。家庭での温かい言葉かけは、子どもの心を育てる栄養となります。

毎日の家庭生活の中で、やさしさや思いやりなどの豊かな心が育つことを願つて「家庭における人間尊重教育十か条」が作成されておりますのでご活用ください。

家庭における人間尊重教育十か条

一 人のいのちを大切にし

いのちある動物、植物をいたわりましょう

差別ダメ 見た目じゃないよ 心だよ

二 健康を大切にし 正しい食事と適度な運動でからだづくりにつとめましょう

三 おはよう、おやすみ、ただいま、おかげりのことばが聞こえる温かい家庭をつくりましょう

四 ありがとう、ごくろうさまの素直なことばで感謝の心を育てましょう

五 家族の仕事を分担し

家族の一員としての役割をはたしましょう

六 人の喜びを喜びとし 人の心の痛みを分かちあい助けあっていきましょう

七 やさしさ いたわりの心を大切にしおどしよりの方々に学びましょう

八 どんな物も人の汗と力でできることを知り物を大切にする心を育てましょう

九 正しくやさしいことばでつづまれた明るい家庭をつくりましょう

十 正しいことをつらぬく強い心で勇気ある行動をとりましょう

【小学生の部】

差別ダメ 見た目じゃないよ 心だよ

(針ヶ谷小学校 五年 本橋 輝)

ほめことば こころのでんき ともされる

(ふじみ野小学校 五年 久保下 風太)

入間郡市同和対策協議会
入間地区人権教育推進協議会 応募作品より

【小学生の部】

助け合う その心がけ 思いやり

(諏訪小学校 五年 原田 知沙)

あいさつは 言われるだけで えがおすべ

(関沢小学校 五年 塚田 いち花)

【中学生の部】

人権は 人と人との マナーだよ

(富士見台中学校 二年 宮崎 翔)

丈夫 あなたはあなたで 素晴らしい

(東中学校 二年 平塚 桃嘉)

人間尊重 わたしたちの合言葉

(富士見市人権教育推進協議会 応募作品より)

人間尊重・私の主張

人権問題について

境界線

富士見台中学校
一年 菊地茉乃

境界線。この言葉を聞いてあなたは何を思い浮かべただろうか。この言葉は主に物事の境目のことoberす。色々な場面に使われるが、私が最初にこの言葉から想像したものは、自分とは違うという偏見から生まれる見えない心の境界線のことだった。なぜこの言葉が思い浮かんだかというと、私の周りにも障害がある人だというだけで見下す人がいたからだろう。私はそのように差別して見下すような人を少なくするために同じ人間と知り、皆と変わらない態度で接することが重要だと思う。

私が小学生の頃、友だちと一緒に下校し

持ちを伝えた。私はその会話を聞き、いつも年上のようを感じていた友だちがより大人びて見えた。その後すぐに信号が青へと変わると友だちはその男性にむかって、「横断歩道をわたるまで誘導しますので肩に手を置いてください。」と言い、男性がそっと肩に手を置いたことを確認すると男性のペースに合わせて、半歩前を行くようにして歩いた。私はその友だちの完璧な対応に驚き、心中で自分のことを格好悪い人間だなと思い少しうつむいた。そして二人の後ろ姿を見ながら横断歩道をわたった。その男性とはすぐに別れたが、別れ際に、「手伝ってくれて、ありがとう。」と穏やかな口調で言われた。私はその友だちではないが心が温まるような感覚がした。

私は障害がある人たちのことを世間の言う当たり前のという境界線から少しだけ外こ

《小学校宣言》

私たちは、全校児童が仲良く楽しく過ごせる学校をつくるために、相手の気持ちを考えた行動を心がけ、いじめのない学校を目指し、以下のことを宣言します。

- 一 私たちは、いじめをしている人に「遊び半分で相手を傷つけるようなことをしてはいけない。」と注意します。
一 私たちは、いじめられている人に「いつでも相談してね。一人でかかえこまないで。」と声をかけてあげます。
一 私たちは、いじめを見ている人に「見ているのもいじめだよ。いっしょに助けてあげよう。」と言います。
一 私たちは、お父さん、お母さん、先生たちに「子どもの変化に気づいて助けてください。」とお願いします。
一 私たちは、友だちのいいところを認め合い、いじめがなくなるまで、「いじめはダメだ」とうったえ續けます。

《由学校宣言》

私たちちは、一人ひとりの個性を認め合える、いじめのない太陽のような学校をつくるために、以下のことを宣言します。

- 私たちは、いじめをしている人に「相手の気持ちになって、自分の言動を見つめよう。」と声をかけていきます。
 - 私たちは、いじめられている人に「一人じゃないから勇気を出して相談してね。」と声をかけていきます。
 - 私たちは、いじめを見ている人に「私たちの一言で救われる人がいるからみんなで助け合おうよ。」と声をかけていきます。
 - 私たちは、お父さん、お母さん、先生たちに「一人ひとりちゃんと理解して、よくなかったら注意をしてください。」とお願いします。
 - 私たちは、仲間を大切にして、いじめを撲滅する努力をします。

教育委員会だより

★ 令和7年度富士見市 いじめのない学校づくり子ども会議 ★

富士見市の小・中・特別支援 学校は、『いじめのない学校づくり子ども宣言』に基づき、児童が主体となり、さらに明るく、楽しい学校生活を送ることができるよう、いじめ防止に取り組んでいます。

今年度は、針ヶ谷コミュニティセンターにおいて小中学校代表児童生徒が、いじめのない学校、学級を築くための取組を紹介し、みんなが安心して仲良く生活できる学校をつくるための方法について考えました。

開催日：令和7年7月22日(火) 9:45～12:00

開催場所：針ヶ谷コミュニティセンター

小学生22名、中学生12名の合計34名の代表児童生徒が、5つの中学校区で真剣に話し合いました。自校のいじめ防止に向けた取組を紹介し、みんなが安心して仲良く生活できる学校をつくるための方法について考えました。

《当日の流れ》

1 開会セレモニー

2 ディスカッション（小学校・中学校に分かれて協議）

3 中学校区に分かれて協議

【テーマ】

～まわりで起るいじめをなくすために、何ができるか考えよう～
 ①まわりで起るいじめをなくすために、何ができるか考えよう。
 ②中学校区で共通して取り組みたいものを決めよう。
 ③話し合った内容の報告（中学校区ごと）
 ④閉会セレモニー



各学校のこれまでの取組について意見を出し合いました。

これまでに効果があった取組について意見を出し合いました。

いじめをなくすために必要なことは何かについて話し合いました。

★まとめ★

今回の会議では、「いじめのない学校づくり子ども宣言」を振り返り、改めて、いじめのない学校づくりに向けた取組について話し合いました。

今後の主な取組として、「いじめを他人ごとにしない・させない」「見ているだけでなく、支える気持ちをもつ」等のキヤッチフレーズや「あいさつ運動」「レクリエーション」等の「いじめをなくすための取組」など、実践的な提案が多くみられました。

今後、会議に参加した児童生徒が中心となって、「みんなが安心して学び成長できる学校づくり」に向けて、各校で具体的な取組を行っていきます。

校舎から、いろいろな声が聞こえます。挨拶の声、友だちと話す声、笑い声、歌の声にも、子どもたちの素直さと明るさがにじんでいます。その声の向こうに、



声がつくる むくもり

鶴瀬小学校 教諭 西澤 美香

今日を精いっぱい生きる子どもたちの姿が見えてくるようです。本校には創立十三年目の合唱部があります。合唱の魅力は、声を合わせる中で相手を

切な力となっています。合唱は音楽でありながら、人としての学びそのものなど思います。

合唱で育まれる「声」は、特別なものではありません。



感じ取ることにあります。自分の声だけではなく、仲間の声を聴き、呼吸を合わせ、互いを生かそうとする。その積み重ねが思いやりや協調性を育み、言葉では教えられない大

日々の挨拶や友だとの会話の中にも、互いを思いやる心が息づいています。そうした小さな声の積み重ねが、この学校のあたたかい空気をついているのだと感じます。

今日もまた、子どもたちの明るく人懐っこく、優しさやあたたかさに包まれた元気な「声」が未来へと響いています。

橋。子どもたちのまっすぐな声が響くたびに、私は「生き力」のようなを感じます。一つ一つの声が重なり合って遊びに来る児童などで大勢わい。「子どもは風の子」その姿は、この学校の姿にも重なります。子どもたちの内にある輝きを伸ばし、互いの声が響き合う、いきいきとした日々を紡いでいきたいと思います。

声は、心と心をつなぐ架け橋。子どもたちのまっすぐな声が響くたびに、私は「生き力」のようを感じます。一つ一つの声が重なり合って遊びに来る児童などで大勢わい。「子どもは風の子」という言葉は健在だなあと嬉しいくなる光景が広がる。しかし、昔と違うところは、「ヘルメット」を被つて自転車に乗つてくる児童がほとんどであること。

自転車の一定の交通違反に令和八年四月から「交通反則通告制度」が導入されるそうです。このため、警視庁では「自転車を安全・安心に利用するため」に、自転車への交通反則通告制度（青切符）の導入――「自転車ルールブック」をこのほどまとめたそ

うである。内容としては、青切符導入の背景と手続きによる反則行為のほか、わかりやすく解説されており、高校生以下の交通安全教育にも役立つそうである。

自転車関連事故数は高止まりと言っているが、児童生徒の自転車事故リスクは高いと言っている。あらゆる年代で確認していくたい。